

貿易と国際収支



(I) 自由貿易と国際分業

■比較生産費説

比較生産費説とは…自国にとって有利な生産に特化し、その生産物を貿易することで、全体の効率が上がるとする説（イギリスの経済学者^[1]）：『**経済学および課税の原理**』

分業なし	ワイン 1単位	毛織物 1単位
ポルトガル	2人	6人
イギリス	8人	4人

分業あり	ワイン 1単位	毛織物 1単位
ポルトガル	8人 ← やらない	
イギリス	やらない →	12人

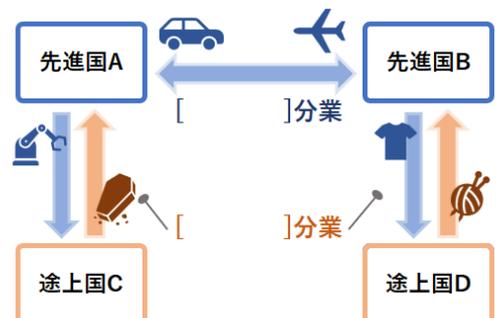
+ α 比較生産費説の単位計算に慣れる！

分業なし	ワイン 一人あたり (ポ) <input type="text"/> 単位 (英) <input type="text"/> 単位	全体の生産
	毛織物 一人あたり (ポ) <input type="text"/> 単位 (英) <input type="text"/> 単位	
分業なし = <input type="text"/> 単位		↓
分業あり	ワイン 一人あたり (ポ) <input type="text"/> 単位 × 8人 = _____ 単位	
	毛織物 一人あたり (英) <input type="text"/> 単位 × 12人 = _____ 単位	

しかし、各国の経済発展や条件などには差があり、国内の利益を考えると特化が難しい場合もある。国内の産業を保護・育成する^[2]]をとることもある。（ドイツの経済学者^[3]]）輸入品に^[4]]をかけたり、^[5]](輸入制限)や輸出奨励金などの^[6]]によって国家が貿易に介入する必要があると主張した。

■国際分業の種類

- *^[7]]…工業製品と原材料を生産して交換
- *^[8]]…先進国が工業製品を相互に交換し合う



近年の状況

- ・国境を越えて事業を展開する**多国籍企業**が増加
- ・日本に本社をおく企業が、生産コストの割安な海外に拠点を移し、現地で生産した製品を逆輸入する例が増加→多くの大企業が海外へ進出した結果、国内製造業が衰退=^[9]]
- ・日本からの輸出額(2020) 1位中国(22%) 2位アメリカ(18%) 3位韓国(7%) 4位台湾(6.9%)
- ・日本への輸入額(2020) 1位中国(25%) 2位アメリカ(11%) 3位豪州(5.6%) 4位台湾(4.2%)

(II) 国際収支のしくみ

国際収支とは、国家間の経済取引の結果を記録したものだ。

※国際収支の算出方法は、2014年より新形式となっている。演習を通して慣れよう！

経常収支

- ・ [10] モノの輸出入
- ・ [11] 旅行・飛行機代など
- ・ **第一次所得収支** ①雇用者報酬：非居住者の雇用者への給与ex (-) 海外タレントへのギャラ
②投資収益：投資によって受け取る配当金などの収益※1
- ・ **第二次所得収支** ①食料・医薬品等の無償援助※A ②国際機関への拠出金③仕送り

12

道路や施設などの社会資本整備のための無償援助※B

13

投資や国債購入※2による収支

* [14]

]投資：経営を支配するための投資(工場建設・株取得)

* [15]

]投資：配当や利子を求める投資(株式購入・国債購入)

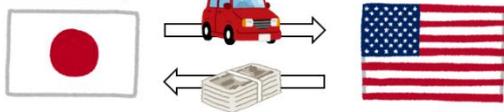
誤差脱漏

統計上の誤差修正分

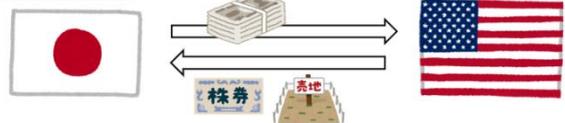
+ α 国際収支は入試でも難関 POINT !

まず基本的な収支の考え方については、資金の動きに注目すればよいが、金融収支だけは資産の動きに着目する！例えば貿易収支の場合、輸出をして**資金が入れば収支はプラス**となる。一方で、金融収支(直接投資)の場合、投資をして資金は流出していても**資産を手に入れているため、収支はプラス**と考える。

例:貿易収支



例:直接投資



難point① ※1※2	投資に関わる収支	難point② ※A※B	援助に関わる収支
投資をした後、配当金などを受け取った場合 第一次所得収支の投資収益	利益を求めて海外株や国債を購入する場合 金融収支の証券投資	援助の中で、食糧や医薬品などの消費財や、国際機関の拠出金、仕送りなどの取引 相手国の資本形成にならないもの 第二次所得収支	道路や港湾、施設といった今後の社会資本になるものの無償援助 相手国の資本形成になりうるもの 資本移転等収支



日本の投資家が外国株を購入したら、**証券投資がプラス**その結果、配当金などの収益が得られたら、**投資収益もプラス**
この関係はよく出題で狙われるので注意しよう

日本の国際収支POINT

- ①貿易収支の黒字が定着(※2011~15に赤字を記録)
- ②直接投資・第一次所得収支がバブル期から増加傾向
- ③長年赤字のサービス収支が観光客効果で2000年頃から増加
→コロナ禍により近年は減少傾向で赤字幅が拡大

貿易と国際収支



(I) 自由貿易と国際分業

■比較生産費説

比較生産費説とは…自国にとって有利な生産に特化し、その生産物を貿易することで、全体の効率が上がるとする説（イギリスの経済学者^[1] **リカード**）：『経済学および課税の原理』

分業なし	ワイン 1単位	毛織物 1単位
ポルトガル	2人	6人
イギリス	8人	4人

分業あり	ワイン 1単位	毛織物 1単位
ポルトガル	8人 ← やらない	
イギリス	やらない →	12人

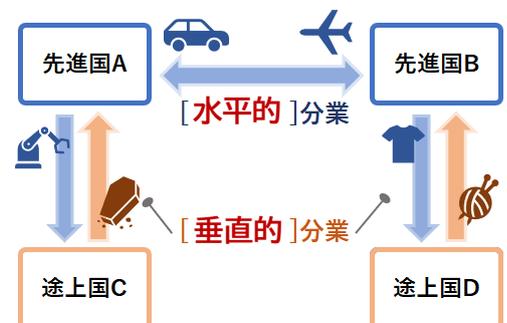
+ α 比較生産費説の単位計算に慣れる！

分業なし	ワイン 一人あたり (ポ)	1/2	単位 (英)	1/8	単位	全体の生産 分業なし = 4 単位
	毛織物 一人あたり (ポ)	1/6	単位 (英)	1/4	単位	
分業あり	ワイン 一人あたり (ポ)	1/2	単位 × 8人 =	4	単位	↓ 分業あり = 7 単位
	毛織物 一人あたり (英)	1/4	単位 × 12人 =	3	単位	

しかし、各国の経済発展や条件などには差があり、国内の利益を考えると特化が難しい場合もある。国内の産業を保護・育成する^[2] **保護貿易**]をとることもある。（ドイツの経済学者^[3] **リスト** ）輸入品に^[4] **関税**]をかけたり、^[5] **セーフガード**](輸入制限)や輸出奨励金などの^[6] **非関税障壁**]によって国家が貿易に介入する必要があると主張した。

■国際分業の種類

- *^[7] **垂直的分業**]…工業製品と原材料を生産して交換
- *^[8] **水平的分業**]…先進国が工業製品を相互に交換し合う



近年の状況

- ・国境を越えて事業を展開する**多国籍企業**が増加
- ・日本に本社をおく企業が、生産コストの割安な海外に拠点を移し、現地で生産した製品を逆輸入する例が増加→多くの大企業が海外へ進出した結果、国内製造業が衰退=^[9] **産業の空洞化**]
- ・日本からの輸出額(2020) 1位中国(22%) 2位アメリカ(18%) 3位韓国(7%) 4位台湾(6.9%)
- ・日本への輸入額(2020) 1位中国(25%) 2位アメリカ(11%) 3位豪州(5.6%) 4位台湾(4.2%)

(II) 国際収支のしくみ

国際収支とは、国家間の経済取引の結果を記録したものだ。

※国際収支の算出方法は、2014年より新形式となっている。

経常収支

- ・ [10 **貿易収支**] モノの輸出入
- ・ [11 **サービス収支**] 旅行・飛行機代など
- ・ **第一次所得収支** ①雇用者報酬：非居住者の雇用者への給与ex (-) 海外タレントへのギャラ
②投資収益：投資によって受け取る配当金などの収益※1
- ・ **第二次所得収支** ①食料・医薬品等の無償援助※A ②国際機関への拠出金③仕送り

12 **資本移転収支**

道路や施設などの社会資本整備のための無償援助※B

13 **金融収支**

投資や国債購入※2による収支

* [14 **直接**] 投資：経営を支配するための投資(工場建設・株取得)

* [15 **証券**] 投資：配当や利子を求める投資(株式購入・国債購入)

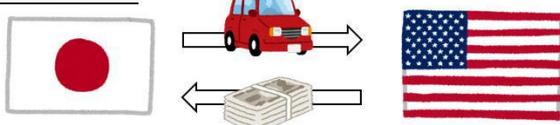
誤差脱漏

統計上の誤差修正分

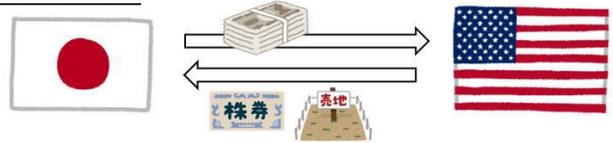
+ α 国際収支は入試でも難関 POINT !

まず基本的な収支の考え方については、資金の動きに注目すればよいが、金融収支だけは資産の動きに着目する！例えば貿易収支の場合、輸出をして資金が入れば収支はプラスとなる。一方で、金融収支(直接投資)の場合、投資をして資金は流出していても資産を手にしてしているため、収支はプラスと考える。

例:貿易収支



例:直接投資



難point① ※1※2

投資に関わる収支

投資をした後、
配当金などを
受け取った場合



第一次所得収支の投資収益

利益を求めて
海外株や国債を
購入する場合



金融収支の証券投資

難point② ※A※B

援助に関わる収支

援助の中で、食糧や医薬品などの
消費財や、国際機関の拠出金、
仕送りなどの取引

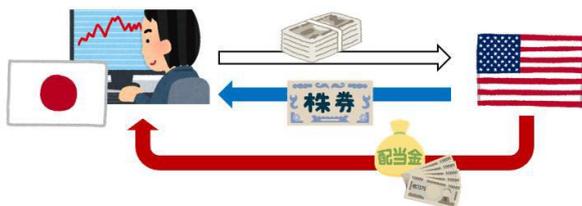
**相手国の資本形成に
ならないもの**

第二次所得収支

道路や港湾、施設といった
今後の社会資本になるものの
無償援助

**相手国の資本形成に
なりうるもの**

資本移転等収支



日本の投資家が外国株を購入したら、**証券投資がプラス**
その結果、配当金などの収益が得られたら、**投資収益もプラス**
この関係はよく出題で狙われるので注意しよう

日本の国際収支POINT

- ①貿易収支の黒字が定着(※2011~15に赤字を記録)
- ②直接投資・第一次所得収支がバブル期から増加傾向
- ③長年赤字のサービス収支が観光客効果で2000年頃から増加
→コロナ禍により近年は減少傾向で赤字幅が拡大